

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2014年5月）

目 次

内 政

- ◆政党支持率調査結果 2
- ◆フィツォ首相が内閣改造の可能性を否定 2
- ◆最高裁判所長官選挙 2
- ◆欧州議会選挙 3

外 政

- ◆ラスムセンNATO事務総長のスロバキア訪問 3
- ◆ライチャーク外務・欧州問題相のモスクワ訪問 4
- ◆ガシュパロヴィチ大統領のチェコ訪問 4

経 済

- ◆欧州委員会経済予測 4
- ◆農地買収法の可決 5
- ◆スロバキアの労働コスト 5
- ◆スロバキア中央銀行月報（5月） 5

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆政党支持率調査結果（5月7日、21日）

世論調査機関 Polis と Focus がそれぞれ5月7日と21日に政党支持率調査の結果を公表した。両方の調査において3月の大統領選挙第一回投票で3位となったプロハーツカ議員の新党「Siet」が Smer に次ぐ2位となった。

	Polis	Focus
Smer	38.3%	34.6%
Siet（ネットワーク）	11.4%	13.3%
Most-Hid（架け橋）	7.9%	5.1%
OLaNO（普通の人々・独立した人達）	7.7%	5.3%
KDH（キリスト教民主運動）	7.0%	9.9%
SMK（ハンガリー系コミュニティ党）	6.3%	5.0%
SDKU（スロバキア民主キリスト教同盟）	5.0%	5.3%

◆フィツォ首相が内閣改造の可能性を否定（5月10日）

フィツォ首相は10日にラジオ番組の中で、同首相の大統領選挙での敗北を受けて何人かの閣僚が更迭されるとの憶測が流れていることにつき、「メディアによる作り話であり、閣僚の交替を行う予定はない」と内閣改造の可能性を否定した。他方で同首相は、全ての閣僚を支持しているものの、今後、閣僚が何らかの失敗を犯すことがあれば、第一次政権時と同様に対応する（第一次政権時は11人の閣僚を更迭）と述べた。

◆最高裁判所長官選挙（5月19日）

19日、次期最高裁判所長官選挙の投票が司法評議会（Judicial Council）メンバー18名によって行われた。選挙にはハラビン現長官の他、現長官に批判的なNGOの支持を受けたジュリショヴァー最高裁判所裁判官及びボレツ法務大臣の推薦を受けたバヤンコヴァー最高裁判所裁判官が立候補した。1回目の投票結果を受け、ハラビン長官とバヤンコヴァー裁判官の間で決選投票が行われたが、いずれの候補者にも投票しない者がいたため、両者とも選出に必要な10票を得られなかった。この結果、次期最高裁判所長官の任命はキスカ次期大統領就任後となることが確実となった。再選挙は120日以内に行われるが、規定により今次選挙立候補者3名が出馬することはできない。次回選挙でも選出者が出ない場合、ハラビン長官が再度立候補することが可能となるが、既にキスカ次期大統領は同長官が再選された場合でも任命を拒否する意向を明らかにしており、事実上19日の選挙により再任の道は絶たれたことになる。

◆欧州議会選挙（5月24日）

24日に欧州議会選挙が行われ与党 Smer が勝利したものの、直前の世論調査を大きく下回る得票率で議席数を一つ減らした。

投票率は13.05%とEU内で最低の水準であった（EU平均は43.1%）。

【投票結果】全13議席：括弧内は選挙前の議席数

Smer	24.1%	4議席 (5)
KDH（キリスト教民主運動）	13.2%	2議席 (2)
SDKU（スロバキア民主キリスト教同盟）	7.8%	2議席 (2)
OLaNO（普通の人々・独立した人達）	7.5%	1議席 (0)
NOVA（新たな多数派）	6.8%	1議席 (0)
SaS（自由と連帯）	6.7%	1議席 (0)
SMK（ハンガリー系コミュニティ党）	6.5%	1議席 (2)
Most-Hid（架け橋）	5.8%	1議席 (0)

外 政

◆ラスムセンNATO事務総長のスロバキア訪問（5月15日）

15日、安全保障に関する国際シンポジウム「GLOBSEC」に出席するためスロバキアを訪問したラスムセンNATO事務総長はガシュパロヴィチ大統領、フィツォ首相及びライチャーク副首相兼外務・欧州問題相と会談した。

（1）ガシュパロヴィチ大統領との会談

ガシュパロヴィチ大統領とラスムセン事務総長はウクライナ情勢について意見を交わした。大統領はNATOがウクライナ危機に際して理性的に行動しているとの見方を示し、「ウクライナの状況を政治的、外交的に解決する方法を模索する必要がある」と述べた。事務総長はNATO加盟国の義務であるGDP2%の防衛費の履行を呼びかけると共に軍の近代化への投資の重要性を強調した。

（2）フィツォ首相との会談

フィツォ首相は、NATOがGDP2%の防衛費の履行を求めていることに理解を示しつつも「スロバキアでは軍に対する予算の増加は非常にセンシティブである」と述べ、厳しい財政健全化政策を実施したばかりであり、他のNATO加盟国より複雑な状況にあると説明した。ラスムセン事務総長は、全加盟国がNATOによる防衛を利用できるが、同時にNATOに対する義務を果たして貢献しなければならないと述べ、「防衛には一定の費用がかかるが、もし安全が保障されなければ、我々はより多くを支払う羽目になる」と強調した。

（3）ライチャーク副首相兼外務・欧州問題相との会談

会談ではウクライナの現状や周辺地域への影響が主要な議題となった。ライチャーク大臣とラスムセン事務総長は、ウクライナの国内情勢を不安定化させ

る継続的な暴力と試みを非難すると共に、国際法の原則を遵守し、ウクライナの主権と領土的一体性を尊重しつつ、対立の政治的解決の模索を呼びかけた。

◆ライチャーク外務・欧州問題相のモスクワ訪問（5月19日）

19日、ライチャーク副首相兼外務・欧州問題相はモスクワを訪問し、ラヴロフ外相及びロゴジン副首相と会談した。ラヴロフ外相との会談では、ウクライナにおける緊張の緩和と外交を通じた平穏な問題解決が全ての関係者の関心であるとの点で一致した。ライチャーク大臣は、5月25日の大統領選挙がウクライナ政府の正統性の回復及び情勢の安定化に極めて重要であり、自由で合法的に、欧州の基準に沿った形で選挙が実施される環境が不可欠との認識を示すと共にブルカルテールOSCE議長の示したロードマップへの支持を表明した。ロゴジン副首相との非公式会談では6月に予定されていた政府間経済・科学技術協力委員会会合の延期に合意した。

◆ガシュパロヴィチ大統領のチェコ訪問（5月27日）

27日、ガシュパロヴィチ大統領夫妻は最後の公式訪問先としてチェコを訪れ、ゼマン大統領夫妻と会談した。ガシュパロヴィチ大統領は、スロバキアとチェコの間を最も親密で友好的なものとして述べ、EU、NATO及びV4での良好で機能的な協力への期待を表明した。政府関係者を含めた全体会合ではV4共同戦闘部隊についても議論された。ストロプニツキー・チェコ国防相は「V4戦闘部隊は2016年以降創設され、同盟の証ともなる」と強調した。この他、両大統領は競争力及びエネルギー安全保障の向上に寄与するEU域内のエネルギー市場創設の必要性について一致した。ゼマン大統領は会談後、スロバキアからユーロ導入の価値ある経験を学ぶことが可能と記者団に述べた。

経 済

◆欧州委員会経済予測（5月5日）

5日、欧州委員会が2014年春の経済予測を公表した。スロバキアに関する予測は以下のとおり。

	2014年	2015年
経済成長率	2.2%	3.1%
財政赤字（GDP比）	2.9%	2.8%
政府債務（GDP比）	56.3%	57.8%
物価上昇率	0.4%	1.6%
失業率	13.6%	12.9%

欧州委予測は、輸出に加えて国内需要も経済成長を牽引するとしているが、他方で大規模インフラ・プロジェクトの更なる遅れが成長を鈍らせる可能性も指摘している。また、不動産価格が2013年に底を打ち、住宅ローン利用が増えていることから、住宅建設も経済成長を後押しするとしている。

欧州委の予測を受け、フィツォ首相は、政府が掲げた主要課題のうちの2つ、すなわち2013年の財政赤字GDP比3%以下及び経済成長と物価安定の実現が達成されたと述べ、スロバキアがEUの過剰財政赤字是正手続きから除外される見込みであることを強調した。

◆農地買収法の可決（5月16日）

16日、国会は物議を醸している農地買収法を可決した。この法律は農地売買に大きな影響を及ぼすもので、今後、農地を売却する場合には、まずスロバキアでの農業経験が10年以上あり、かつ当該農地が所在する地区で農業に3年以上従事している者に購入する権利が与えられ、希望者がいない場合、隣接する地区の農業従事者、その次にスロバキア国内の農業従事者に購入権利が認められる。それでも購入希望者がいないことが確認された後、初めて誰にでも売却することが可能となる。一部の専門家は、この法律が土地の所有権を侵害していると指摘している。

◆スロバキアの労働コスト（5月20日付SME紙）

欧州統計局（Eurostat）データによると、スロバキアの労働コストの高さはEUで21番目である。近隣諸国との1時間あたりの労働コスト比較は以下のとおり。労働コストの大きな部分を占める給与税（payroll tax）の割合はEU平均が23.7%なのに対し、スロバキアでは27.4%と高い。

	2008年	2013年
オーストリア	€26.40	€31.40
チェコ	€ 9.20	€10.30
スロバキア	€ 7.30	€ 8.50
ポーランド	€ 7.60	€ 7.60
ハンガリー	€ 7.80	€ 7.40

◆スロバキア中央銀行月報（5月）

1. GDP

（1）速報値によると2014年第1四半期のスロバキアの経済成長率は前期比0.6%、前年同期比2.4%（季節調整前）と前期から加速し、2四半期連続で成長率が上昇。国外需要と国内消費の牽引でバランス良く経済が成長。

(2) 2014年第1四半期の売り上げは、3月に前月比で0.3%下落したものの、前期比0.7%増。経済危機以降で最も高い伸び率を記録した四半期の一つとなり、民間消費が加速していると見られる。

(3) 鉱工業生産は、自動車及び石油製品の生産及びエネルギー供給の落ち込みにより成長が鈍化。特に2月と3月の生産が前月比で多少停滞した影響を受け、第1四半期の鉱工業生産の成長率は前期比1.4%。3月の伸び率は前年同期比5.9%と前月(9.1%)から鈍化。建設部門の生産は、昨年末からの停滞を反映し、3月は前月比で2.6%減、第1四半期は前期比で3.5%減。

2. 雇用率及び賃金

(1) 統計局速報値によると2014年第1四半期の雇用率は前期比0.2%の上昇。前期同様の改善傾向が続き、雇用創出が確認された。3月の雇用率は前月比0.2%増、前年同期比2.0%増と伸び率が鈍ったものの改善傾向が継続。雇用率は特に工業部門とサービス部門で上昇。

(2) 4月の登録ベースの失業率は季節調整前で13.0%に低下。4月の有効求人数の増加は今後の状況に向けた良い兆候。

(3) 3月の名目賃金は806.3ユーロで季節調整後の水準は実質的に前月から変化なし。2014年第1四半期中の賃金の伸びは2013年第4四半期中よりも大きい。公共部門の賃金上昇率が民間部門よりも若干上回っている。

3. 物価

(1) 3月同様、4月の物価は前年同期比で0.2%下落。前月比では停滞。

(2) エネルギー及び食料品の価格の動きは鈍いが、2014年の実質賃金上昇が、2015年初頭からサービス部門の価格を徐々に押し上げる可能性あり。

4. 貿易

(1) 2013年第1四半期の貿易黒字がGDP比5.6%に対し、2014年第1四半期は同6%を若上回る水準。3月の貿易黒字は、輸入増加と輸出減を受け、3億5850万ユーロと前年3月より8410万ユーロ減。

(2) 貿易額は1月に非常に大きな伸びを記録したが、2月と3月は前月比で減少しており、今後のリスク要因。前年同期比でも、3月の商品の輸入が5.9%増に対し、輸出の伸びは3.8%に留まっている。

(3) ユーロ圏外の市場の不透明な状況、3月の売り上げや生産及び輸入に関する指標の悪化、ユーロ圏の多くの国における予想を下回る第1四半期の経済成長率、世界の貿易に対する現時点での弱い見通しが、2014年の経済活動に対するリスクを形成し始める可能性あり。

(了)

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

